第109期｜事業報告
2022年1月1日～2022年12月31日

Vol.44

日華化学の“いま”をダイレクトに伝える

GLOBE
グローブ

◆ 事業概況のご報告
- 株主の皆様へ
- 2020年～2022年振り返り
- トップインタビュー
- 化学品事業/化粧品事業

◆ 新中期経営計画
- 中期経営計画「INNOVATION25」
- 業績予想

◆ 2022 TOPICS

NICCA

5大戦略は 大きく変更せず
「事業構造の大転換」「メリハリのある投資」
「生産性向上」を加速させることが数値目標達成の鍵

INNOVATION25「5大戦略」

戦略1	事業構造の大転換	EHD事業※へのシフト
戦略2	メリハリのある投資	注力事業への安定投資、投下資本収益性向上
戦略3	生産性改革	デジタルトランスフォーメーションの積極推進
戦略4	サステナブル経営の推進	持続可能な社会への貢献
戦略5	大家族主義の進化	社員エンゲージメント向上とダイバーシティの推進

※「Environment/環境」「Health/健康・衛生」「Digital/先端材料」

2020年～2022年振り返り

コロナ禍をきっかけに、コスト体質を大きく変革した3年間となった

■2020年、世界中でコロナ禍が深刻化しロックダウンが進行。先行きが読めない経営環境下で、2021年～2025年の5か年中期経営計画を策定

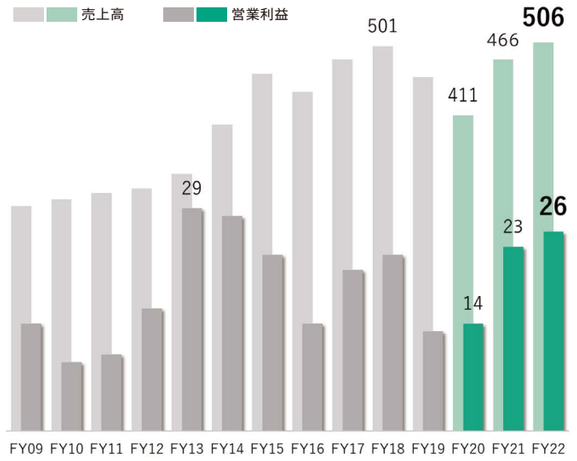
■2020年は減収ながらも増益を保持（売上△10.9%、営業利益＋1.5%）。コスト体質を大きく変える転換点となった

■2021年、2022年は共に増収増益を果たし着実に業績を向上

■コストダウンの徹底や設備投資の縮小など我慢の3年間となったが、活動の効率化やリモートの活用は働き方改革にも寄与

■また、原材料及び物流費の高騰が続く中で価格改定や新市場の開拓により事業価値を高める活動を実施

売上高/営業利益の推移※1（億円）



※1「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年12月期における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております。

代表取締役社長
江守康昌

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年12月期(第109期)通期決算概況についてご報告申し上げます。

まず初めに足元の3年間を振りかえりますと、コロナ禍をきっかけに、コスト体質を大きく変革した3年間となりました。世界中でコロナ禍が深刻化した2020年度、売上高は10%ほど減収となりましたが、働き方改革や大幅なコスト削減の結果、営業利益は1.5%増と増益を保持することができました。この年に私共が培ったものは大変大きく、会社全体の損益分岐点を大きく下げることができ、コスト体質を大きく変革したおかげで、2021年度は増収増益、特に営業利益は10億円ほど増加させることができました。

また、2022年度は、2023年度までの中期経営計画目標の売上高500億円、営業利益25億円を、1年前倒しで達成することができました。

決算報告2022年12月期（動画6:43）視聴 ▶

今年2月に発表した新中期経営計画のスタートにあたり、この先20年、30年という長期スパンで日華化学が何を目指していくのかを「パーパス」として定めました。「Activate Your Life」とは、ステークホルダーとともに、無限に広がる界面カガクのチカラで様々な社会課題を解決し、より豊かな暮らしや輝く未来に貢献することです。

具体的には、社会が直面する環境リスクから人々を守る、健康で笑顔あふれる未来社会を創る、急速に進むナノ化・デジタル化に対応する新技術で社会に貢献する、といった価値を提供していきます。この「パーパス」を経営の根幹に置き、私たち社員一人ひとりが社会や未来を輝かせる力を育むことで、持続的な成長をめざしてまいります。

「Activate Your Life」紹介ページ ▶

トップインタビュー

2022年12月期の決算を発表されましたが、どのような内容だったのでしょうか？

2022年12月期は、おかげさまで増収増益を達成することができました。

売上高は、506億2千7百万円（前期比8.6％増）、営業利益は、26億2千8百万円（前期比10.6％増）、経常利益は、31億3千2百万円（前期比15.7％増）、親会社株主に帰属する当期純利益は、21億1千4百万円（前期比18.5％減）となりました。

売上高の主な増加要因は、原材料価格高騰への対策としての販売拡大や価格改定が功を奏したことと円安による外貨建売上の増幅によるものです。また親会社株主に帰属する当期純利益の減少につきましては、前期は固定資産の売却益があったことによるものです。

セグメント別の主な業績ですが、一つ目のセグメントである化学品事業は、増収、大幅な増益を達成することができました。売上高は、362億6千8百万円（前期比11.0%増）、セグメント利益は、18億6千1百万円（前期比28.9%増）となりました。

主な要因は、注力分野である化学品やEHD（Environment/環境、Health/健康・衛生、Digital/先端材料）関連製品の販売が拡大したことと、円安による外貨建売上が増幅したことです。

二つ目のセグメントである化粧品事業は、売上高は前年並み、利益におきましては減益となりました。売上高は、132億6千5百万円（前期比0.4%減）、セグメント利益は、24億3千8百万円（前期比10.8%減）となりました。

主な要因は、子会社の山田製薬で前年度上期に一時的な大口受注案件があったことと手指消毒剤の大幅減によるものです。

なお、この度、将来的な利益水準に対して配当性向30%を目安として拡充していく事を配当方針に加えた事を踏まえて、期末配当を11円から19円に上方修正し、年間配当30円とさせていただきました。

2022年12月期（第109期）決算概況

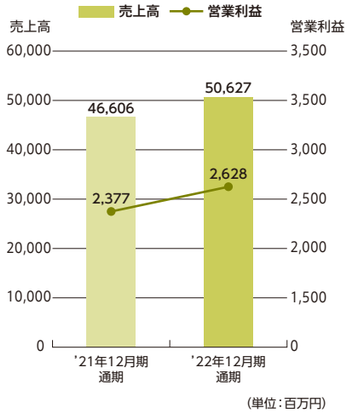
売上高
506億2千7百万円　8.6%増

営業利益
26億2千8百万円　10.6%増

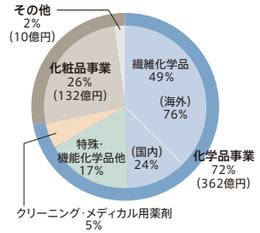
経常利益
31億3千2百万円　15.7%増

親会社株主に帰属する当期純利益
21億1千4百万円　18.5%減

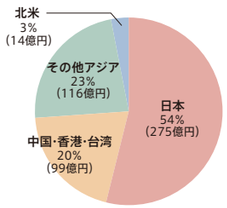
売上高・営業利益の推移



事業別売上高比率



地域別売上高比率



【P3-4における記載数値について】
※すべて連結の情報です　※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期第１四半期連結会計期間の期首から適用しており、2021年12月期における各数値については、前期との比較のために当該会計基準等を簡便的に適用した後の数値としております　※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております（円グラフは1億円未満を切り捨てて表示しております）　※％表示は前年同期比で小数点第2位を四捨五入して表示しております（円グラフは売上高比率で小数点第1位を四捨五入して表示しております）

化学品事業

繊維化学品
●繊維加工の一連の工程（精練・漂白・染色・捺染・仕上まで）を網羅する多様な薬剤

機能化学品
●水系ウレタン樹脂等の機能ポリマー
●フッ素・シリコーン等の工業用薬剤

クリーニング・メディカル用薬剤
●業務用クリーニング・リネンサプライ業界向け薬剤
●医療用器具・福祉分野用洗浄剤等

先端材料
●機能性人工核酸、精密制御ポリマー、機能性ナノ材料

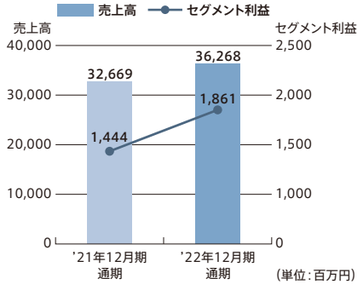
売上高　362億6千8百万円　11.0%増

セグメント利益　18億6千1百万円　28.9%増

【売上高】＋ 注力分野※1・EHD※2関連製品の販売が拡大＋円安による外貨建売上増幅　日本：減収から増収へ
－ ４Q需要の落ち込みの影響（海外繊維化学品分野）
【利　益】＋ 円安進行による利益増
－ 原材料高　（対策）販売拡大や価格改定

※1 注力分野：化学品／EHD※2領域　※2 EHD：「Environment/環境」「Health/健康・衛生」「Digital/先端材料」

［売上高・セグメント利益の推移］



化粧品事業

美容室向け頭髪用化粧品
DEMI　ErroL
●「デミ」「イーラル」ブランドで、シャンプー、トリートメント等のヘアケア剤等を提供

ODM・OEM
●頭髪用化粧品の相手先ブランド受託生産

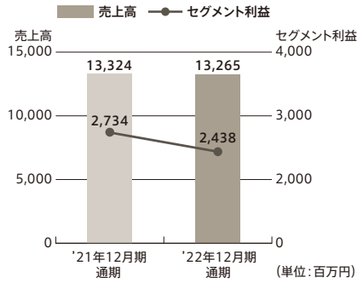
一般通販
ansāge
●スキンケア基礎化粧品ブランド「アンサージュ」のインターネットによる通信販売

売上高　132億6千5百万円　0.4%減

セグメント利益　24億3千8百万円　10.8%減

【売上高】＋ デミコスメティクス他が堅調に推移
－ 前上期一時的な大口受注案件（山田製薬ODM事業）
－ 手指消毒剤の大幅減（山田製薬）
【利　益】－ 山田製薬の減収
－ 原料・資材高騰　（対策）コストダウン等

［売上高・セグメント利益の推移］



中期経営計画「INNOVATION25」

弊社は、中期経営計画「INNOVATION25」を掲げており、「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーションカンパニー」を目指し、3年後の2025年12月期には2022年12月期比で、売上高12.6%増の570億円、営業利益52.2%増の40億円、ROS 7%を計画しております。

特に、不透明な経営環境下にあっても、界面科学技術は素材や原料の進化に必須となることからイノベーションチャンスは飛躍的に増えると考えており、「規模」よりも「質」的成長の優先を大きな経営課題とし、「事業構造の転換」「収益性改善」「成長分野への積極投資」を推し進め、"新しい成長スパイラル"を確立する3か年と位置付けております。

■中期経営計画「INNOVATION25」の5大戦略として、

戦略1）事業構造の大転換　EHD事業へのシフト
戦略2）メリハリのある投資　注力事業への安定投資、投下資本収益性向上
戦略3）生産性改革　デジタルトランスフォーメーションの積極推進
戦略4）サステナブル経営の推進　持続可能な社会への貢献
戦略5）大家族主義の進化　社員エンゲージメント向上とダイバーシティの推進

に取り組んでおります。

戦略1）事業構造の大転換

大きな社会課題である「E/環境」「H/健康・衛生」「D/先端材料」領域に事業を集中させる「EHDシフト」を推進してまいります。

特に化学品事業のEHD比率は向上余地が大きく、2022年のEHD比率37%を2025年には50%以上とすることを目指しています。また、EHD製品の利益率は35%と従来製品の25%と比較し高利益率であることから、EHD製品の比率が高まれば化学品全体の収益性も高まる計画です。また化粧品事業においては、積極的な投資を行い、強みである商品企画・開発力に加え、従来行ってこなかったマーケティング・プロモーションの本格展開によるシェア拡大により、事業拡大を加速させてまいります。

◎/今後特に注力 ○/注力

日華化学が注力するEHD領域		化粧品事業	化学品事業		
			繊維化学品	クリーニング&メディカル	スペシャリティケミカル
環境 Environment	お客様の生産工程の環境を改善（省エネ・節水、脱炭素、環境改善、廃棄物削減など）	——	◎ 薬剤による工程短縮、節水ほか	○ 薬剤による工程短縮、節水ほか	◎ 半導体ウェーハ加工クーラント剤回収・リサイクル
	環境負荷の小さい原料や容器へ切替	◎ 植物由来原料や環境に優しい容器	◎ バイオ由来原料やリサイクル原料	○ バイオ由来原料やリサイクル原料	◎ 溶剤系→水系化
健康・衛生 Health	人を健康にする・キレイにする	◎ 毛髪・頭皮をより健やかに、キレイに	○ スポーツウェアなどの機能を進化	○ 健康で清潔なくらしへ	——
	衛生管理、抗菌・抗ウイルスなど	○ 手指洗浄剤	◎ アパル・インテリアなどの抗菌・抗ウイルス	◎ 薬剤による感染制御	——
先端材料 Digital	次世代通信やナノテクノロジーを支える新たな界面課題に対応	——	——	——	◎ 高周波用低誘電材料など
	お客様の生産現場のデジタル化を促進	——	——	◎ 薬剤管理供給システムの提案	——

戦略2）メリハリのある投資

EHDシフトと効率化への投資に集中し、ROICで事業毎の投資効率を管理してまいります。借入金は2022年は103億円と2019年の195億円から約半減、自己資本比率も2019年の37%から50%と飛躍的に改善しております。今中期経営計画期間内の投資は営業CF内で行いDEレシオを意識したバランスの良い財務体質を目指しております。

	3年間の主な投資計画	ROIC目標（25年）
化粧品	•長期成長を見据えた製造機能拡充 •積極的なマーケティングなど	12.0% 積極投資等により短期間では減少
化学品	•EHD関連事業成長のための増産投資や研究開発投資 •DX、生産性向上投資など	5.0% 投資の厳選と利益率向上により増加
全社	•新人事システム導入など	7.0%以上 WACC以上

戦略3）生産性改革

デジタルトランスフォーメーションの積極推進により、効率アップ&PH（一人当たりの生産性）向上を図ると共に、様々なデータを分析・活用することにより新たな価値創出につなげてまいります。

戦略4）サステナブル経営の推進

環境分野では地球環境をもっときれいに、くらしの分野では人々のくらしと生活を快適に、社会分野では社会をより豊かに、を重要課題としております。目標値として2030年までにグループ全体のCO2実質排出量を2018年比30%削減としておりますが、2022年にはすでに24%の削減をしています。また、コロナ禍における福井県内の中学生の修学旅行の受け入れや、美容師を目指す美容学校の生徒を対象として独自の奨学金制度を設立。少子化や働き方改革による美容業界の課題解決を目指し、学生をバックアップしております。

マテリアリティ（重要課題）

環境	くらし	社会
地球環境をもっときれいに	人々のくらしと生活を快適に	社会をより豊かに

•グループ全体のCO2実質排出量削減
•EHD事業による社会課題を解決する事業活動
•仕事を通じた社会貢献活動の推進　など

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

戦略5）大家族主義の進化

弊社の掲げるEHDシフトにより、会社も個人も社会課題の解決に向き合い、自ら難しい仕事に挑み成長を惜しまない社員の取組みや成果を公正に評価することで、ひとりひとりの仕事のやりがいや楽しさが高まる、この様な循環で持てる力を最大限に発揮できる、厳しくも温かい大家族主義の実現を進化させてまいります。

『EHDシフト』
•会社も個人も社会課題解決に向き合う
•仕事のやりがい・楽しさが高まる

→ 社員と会社の絆 エンゲージメント → チャレンジ
•自ら難しい仕事に挑む
•成長の努力を惜しまない

→ 人事制度の大方針
•成果は"公正に"評価

→ 厳しくも温かい大家族主義

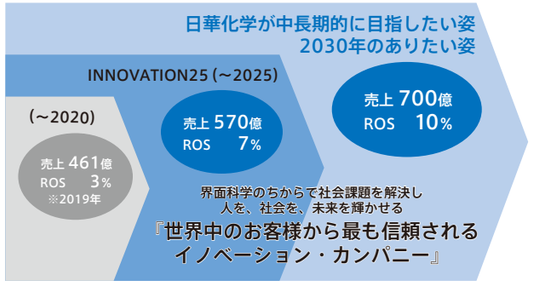
業績予想

2023年12月期の業績・配当予想と施策について

2023年12月期の業績予想は、売上高520億円、営業利益27億円、経常利益28億円、親会社株主に帰属する当期純利益17億円を見込んでおり、年間配当は、30円から32円と、2円の増配を予定しています。

施策といたしましては、メリハリのある投資と高利益率の化粧品への注力を掲げており、化学品事業におきましては利益率のアップ策として、高利益率のEHD領域製品の販売比率を高めること（EHDシフト）、業務の効率化を図ること（営業・研究・生産・バックオフィス等全職種）、また海外でのEHD製品の拡販を推進してまいります。

一方、化粧品事業は、4月に大型新ブランド「DEMI DO（デミドゥ）」さらに6月にはフルリニューアルとなる基幹ヘアカラーブランド「トイロクション」の上市を予定しています。同時に広告メディアへの露出を高め、SNSなどを活用したデジタルプロモーションの強化を図ってまいります。



2022 TOPICS

3月　（株）ニトリとの共同開発「アルナスDF」ダイニングセット 抗菌防臭・抗ウイルス加工の展開

繊維事業分野で長年培ってきた抗菌防臭加工技術を応用。抗菌防臭・抗ウイルス加工剤「ニッカノンRB 40」を木製部分に塗布することで、高い抗菌・抗ウイルス効果を確認。

4月　ポリエステルアップサイクル技術「ネオクロマト加工」をエレファンテック社と共同開発

染色・プリントされたポリエステル布地から染料を簡単に取り除き、再度、染色・プリントによる意匠を付与することができる技術。

6月　アミノ酸由来人工核酸モノマーの工業生産プロセスを確立、核酸医薬等の試験研究用途向けに製造・販売を開始

名古屋大学大学院浅沼教授、北海道システム・サイエンス㈱との共同研究。核酸医薬で困難とされてきた「安定性」と「安全性」を両立。

9月　デミコスメティクス最高峰ブランド「フローディア」より エイジングケアライン誕生

オイルケラチン（毛髪補修成分）を毛髪内部のすみずみまで浸透させ定着させることで、もろくなったエイジング毛の弾力を取り戻します。

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2021年12月31日	当連結会計年度 2022年12月31日
流動資産	27,562	29,855
固定資産		
有形固定資産	23,277	22,411
無形固定資産	298	399
投資その他の資産	3,394	3,455
資産合計	54,533	56,122
流動負債	16,702	15,987
固定負債	10,506	9,742
負債合計	27,209	25,729
株主資本		
資本金	2,898	2,898
資本余剰金	2,928	2,951
利益余剰金	19,284	21,006
自己株式	▲1,444	▲1,449
純資産合計	27,323	30,392
負債純資産合計	54,533	56,122

大株主（上位10名）

（単位：千株）

有限会社江守プランニング	2,370	14.63%
日華共栄会	1,694	10.45%
長瀬産業株式会社	1,407	8.68%
日華化学社員持株会	665	4.10%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	577	3.56%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	516	3.18%
公益財団法人江守アジア留学生育英会	500	3.08%
株式会社福井銀行	344	2.12%
宗教法人歓喜寺	268	1.65%
江守壽恵子	218	1.34%

（注）1.持株比率は自己株式（1,508千株）を控除して計算しています。2.特株数は千株未満を切り捨て、持株比率は少数第3位を四捨五入して表示しております。

会社概要

商　　号　日華化学株式会社
資 本 金　28億9,854万円
所 在 地　〒910-8670 福井市文京4丁目23-1
T　E　L　(0776)24-0213(代)
事業内容　1. 繊維工業用界面活性剤の製造、販売
2. 金属、製紙、塗料、染料、合成樹脂用界面活性剤の製造、販売
3. クリーニング、業務用洗剤の製造、販売
4. 化粧品・医薬品の製造、販売

役員

代表取締役社長	江守　康昌	取締役（社外）	図子　恭一
代表取締役副社長	龍村　和久	取締役（社外）	相澤　馨
取締役	片桐　進	取締役（社外）	山岡　美奈子
取締役	澤崎　祥也	取締役（社外）	坂本　修一
取締役	李　晶日	監査役	宮本　和浩
取締役	稲継　崇宏	監査役（非常勤）	川村　一司
取締役	藤森　大輔	監査役（非常勤）	増田　仁視

発行／日華化学株式会社　発行月／2023年3月 通算44号

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2021年1月1日から 2021年12月31日まで	当連結会計年度 2022年1月1日から 2022年12月31日まで
売上	48,474	50,627
売上原価	32,431	34,456
売上総利益	16,043	16,171
販売費及び一般管理費	13,589	13,543
営業利益	2,453	2,628
営業外収益	485	614
営業外費用	232	110
経常利益	2,706	3,132
特別利益	816	147
特別損失	61	11
親会社株主に帰属する当期純利益	2,595	2,114

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を2022年12月期から適用しております。

連結キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）

科目	前連結会計年度 2021年1月1日から 2021年12月31日まで	当連結会計年度 2022年1月1日から 2022年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,722	2,317
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲994	▲885
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲5,024	▲1,962
現金及び現金同等物の期末残高	6,373	6,263

株式の状況（2022年12月31日現在）

発行可能株式総数　44,932,000 株
発行済株式の総数　17,710,000 株
株　主　数　4,708 名

株主メモ

事業年度　毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会　毎年3月下旬
基準日　定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年6月30日
株主名簿管理人　東京都千代田区丸の内1丁目4-1
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先　〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8-4
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先　フリーダイヤル 0120-782-031
※取次事務は三井住友信託銀行の本店および全国各支店で行っております。
上場証券取引所　東京証券取引所 プライム市場・名古屋証券取引所 プレミア市場
一単元株主数　100株
証券コード　4463

【住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について】株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申出ください。
【未払配当金の支払について】三井住友信託銀行にお申出ください。

CP（IR情報フォーマット）▶

<IR活動アンケート>
今後のIR活動の参考にさせて頂きます。皆様のご要望等をご記入いただきます様、よろしくお願い申し上げます。▶

日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO.,LTD.

さらに詳しい情報・バックナンバーは
www.nicca.co.jp